

平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立東濃特別支援学校

学校番号

115

自己評価

学校教育目標	・子どもたちの命を守り、願いや夢を実現する教育を実践するとともに、将来の社会参加や生活自立を可能にする教育活動の開発と創造に努める。	
評価する領域・分野	小学部	
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育方針や指導の内容については、日々の授業や学校行事等を参観する機会を設けて教育活動を積極的に公開しているため、理解が深まってきている。 ・施設設備をさらに充実させ、学習環境を整える必要がある。 	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	・家庭・地域生活に関する基礎的能力や意欲を育てる。	
重点目標を達成するための校内組織体制	・キャリア発達を促す教育を目指すため、小学部から中学部・高等部まで一貫した指導体制で取り組む。	
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・「キャリア発達段階表」、「キャリア学習プログラム」を基盤として、一人一人の児童が必要としている支援を的確にとらえ、目標の設定や手だてを明確にした「楽しい」と感じる授業づくりの実践に取り組む。 ・居住地校交流や地域の方との交流活動に取り組む。 	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」において、目標、学習内容、支援方法、児童の様子の変化等について、保護者とともに検証・評価する。 ・交流先での取り組み姿勢や、児童・保護者の感想等による自己評価。 	
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・「楽しい」と感じる授業づくりの実践及び授業改善。 ・「キャリア発達」を着眼点とした保護者との個別懇談の実践。 ・居住地校交流や地域交流、校種間交流の積極的な取り組み。 	
評価の視点	評価	
① キャリア発達を促す教育の実践	A (B) C D	
② 職員の専門性の向上	A (B) C D	
③ 交流活動の積極的な実践	A (B) C D	
成果・課題	総合評価	
○「キャリア発達段階表」「キャリア学習プログラム」を活用することにより、職員が個々の児童の様子を的確に捉えて、保護者との懇談においても共通見解をもつことができた。 ○職員が研修に積極的に参加し、専門性の向上に向けて取り組めた。 ○地域の方々との交流は毎年継続して実施しており、本校の教育や本校児童に対する理解が深められている。 ▲居住地校交流の直接交流に対する保護者の意識は高まってきているが、まだ、消極的なところもみられるため、意識改革への働きかけが必要。	A (B) C D	
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の視点に立った授業実践を積み重ね、日々改善に取り組む。 ・職員の専門性を高め、小学部の段階から将来を見据えた支援を目指す。 ・居住地校交流の積極的な参加に向けて、保護者への理解を深める。 	

評価する領域・分野	中学部	
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・「防災安全と健康教育の推進」「多様な学びに対応したカリキュラムマネジメント」「地域や関係機関との連携強化」を重点目標として学部運営を進め、成果をあげた。 ・保護者アンケートからもこれらの取組についての理解も得られてきているが、交流、地域との連携については、不十分なアンケート結果となっており、保護者理解、意識改革のための積極的な働きかけが必要。 	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中学部入学までに積み上げてきた基礎的能力を働くことや生活の場において変化に対応できる力に育てる。 	
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・研修部を中心に作成したキャリア発達段階表及びキャリア学習プログラムの有効活用を目指し、小学部から高等部までの一貫した指導体制で取り組む。 	
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行、宿泊学習、校外学習、水泳実習、スケート実習、交通安全教室等の明確な狙いに基づく体験的活動 ・職場等見学、作業学習集中週間、作業作品販売活動(ハッピーマーケット) ・居住地校交流、地域の学校・食事処・住民との各種交流活動、積極的発信 	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・学習後の振り返りにおける自己評価。 ・「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の支援内容、成長の様子、学習状況・内容を保護者とともに検証・評価する。 	
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・各行事において防災安全と健康を大切にする視点をもった取組を実践。 ・各行事においてキャリア発達の視点に立った取組を実践。 ・居住地校交流の推進や地域の人々・学校との連携を強化する働きかけ。 	
評価の視点		評価
① 防災安全と健康教育の創造(人権教育も含めて)		A ㊀ C D
② キャリア教育の開発		A ㊀ C D
③ 居住地校及び地域の関係機関との情報交流		A ㊀ C D
成果・課題		総合評価
<p>○非常変災時の対応(Jアラートを含む)について、学校内外を想定し、組織的・計画的に取り組むことにより生徒や職員、保護者の防災意識を高めることができた。</p> <p>○生徒の実態把握や評価を適切に行い、生徒個々に即した支援や指導を行うことができ、保護者の理解が得られない事案に対しても誠実に対応できた。</p> <p>▲居住地校交流の直接交流率が低く、保護者の意識改革への働きかけが必要。</p> <p>▲地域の中学校保護者や地域団体等との交流会は数回開き、特別支援学校に対する地域理解への一助となっているが、同年代の学校間交流相手を模索中。</p>		A ㊀ C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の心の健康を配慮した支援、指導法の共通理解。 ・作業学習を中心に「働く人」を意識した進路学習の実施。 ・今年度実施できなかった地域の同年代との交流計画の立案。 ・学部集会の充実を図ることによる生徒の活躍場面の多様化。 	

評価する領域・分野	高等部
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・教育方針や教員の姿勢、授業等には肯定的な回答がほとんどであるが、情報をわかりやすく丁寧に伝えているかについては十分でないという回答もみられた。 ・いじめや体罰等についての学校の取組がわからないという回答がみられた。 ・施設設備の充実が必要である。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校、中学部段階で培ってきた能力を土台に働くことの知識、技能の獲得や必要な習慣形成を図る。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・高等部全職員による指導・支援および連携を図る。
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・作業学習（校内、企業内）、現場実習の充実を図る。 ・保護者への進路情報の周知を図る。 ・高校との交流、共同学習に取り組む。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・実習や行事、授業等に取り組む姿勢及び生徒の感想等による自己評価 ・実習先での評価 ・保護者によるアンケート評価
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・企業内作業学習や現場実習先の開拓に努めるとともに、作業学習における校外学習として現場作業にも取り組み、効果を検証した。 ・瑞浪高校、土岐紅陵高校及び東濃フロンティア高校との交流、共同学習を実施した。 ・作業製品販売会を年間5回実施した。内1回新規会場で実施できた。
評価の視点	評価
① 生徒の能力の伸長	Ⓐ B C D
② 全職員の取り組み状況	A Ⓑ C D
③ 保護者の期待	A Ⓑ C D
成果・課題	総合評価
<p>○企業様、恵那特別支援学校を得て、新たな作業学習の形態(校外作業)に取り組み、一定の効果がみられた。積極的な校外での学習体験が学習の質を高めることがわかった。</p> <p>○作業製品販売会を新規会場で実施でき、新たな販売機会の開拓ができた。</p> <p>○東濃フロンティア高校との共同学習は郷土料理(からすみ)の調理実習を実施した。瑞浪高校との交流は本校の学校祭に参加いただき合同で音楽発表を実施した。土岐紅陵高校との交流は、学年ごとの音楽発表に演奏で加わっていただく形式で小、中学部にも鑑賞していただくことができた。</p> <p>▲保護者への学校情報の効果的な伝達方法を検討する必要とともに「いじめ」「体罰」等の社会的関心が高い課題に本校がどう取り組んでいるのかを紹介し安心していただく必要もある。</p>	A Ⓑ C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な進路情報を確実に保護者に伝達し、保護者とともに考えていく進路支援の在り方を検討する。 ・地域への発信をさらに充実したものにしていく。(作業製品販売、交流及び共同学習等) ・教育活動内容をわかりやすく保護者に伝える方法を検討する。

評価する領域・分野	教務部	
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの実態の捉えや指導内容について課題がある。また、施設設備については、環境が十分でないと思っている保護者が多い。 	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 支援計画や指導計画等の表記を、児童生徒や保護者に分かりやすいものにする。 子どもたちの実態に合わせた教育課程を検討し、次年度に実施する。 施設設備を新しくすることは難しいが、特別教室を活用しやすい環境に整える。 	
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 各学部教務主任、学部主事と共通理解をもって進める。 教務部が中心となって倉庫の整理等を進める。その分、必要のない会議は減らす。 	
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> 個別の支援計画や指導計画作成時に保護者にわかりやすい内容であるか確認するとともに、表記の仕方のモデルを配布する。 他校の教育課程を調査するとともに、新学習指導要領に対応した教育課程を作成する。 倉庫を整理し、特別教室に不必要なものを片付ける。図書室、コンピューター室の学習環境を整える。 	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> 個別の支援計画や指導計画の表記が分かりやすくなったか。 新教育課程の指導と評価の年間計画が作成できたか。 図書室、コンピューター室が整理され、学習環境が整えられたか。 	
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> 個別の支援計画、指導計画の表記方法を配布した。 教育課程を見直し、それに対応する指導と評価の年間計画を作成した。 図書室を整理しデジタル管理環境が整った。また、コンピューター室を整理するとともに、パソコンを整備した。 	
評価の視点	評価	
① 個別の支援計画や指導計画の表記が分かりやすくなったか	A (B) C D	
② 新教育課程の指導と評価の年間計画が作成できたか	A (B) C D	
③ 図書室、コンピューター室が整理され、学習環境が整えられたか	(A) B C D	
成果・課題	総合評価	
○新教育課程は、教科書や指導と評価の年間計画等の準備ができた。 ▲個別の支援計画や指導計画の表記については、少しずつ分かりやすい表記になってきているが、まだまだ課題がある。	A (B) C D	
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> 新職員体制になったら、再度文書表記について研修を行う。 指導と評価の年間計画の評価を適切に行い、よりよいものにしていく。 	

評価する領域・分野	研修部
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校の授業には体験的な活動が取り入れられ、児童生徒は意欲的に取り組んでいる」への肯定的な評価が 83.7%と高く、「楽しい授業」を目指した研究の成果が見られる。 ・「学校の授業内容や進度は、児童生徒の実態に即している」の評価が他より低かった。今後、より一層、一人一人の実態把握に努め、個に応じた指導支援を行う必要がある。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校の教員としての専門性を磨くための研修、研究を行っていく。 ・児童生徒の実態把握を的確に行い、個に応じた指導支援を職員全体で共通理解する。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・各分掌と連携し、専門的知識を高めるための研修会を実施する。 ・各分掌と連携し、指導支援にかかわる情報を校内外に発信する。 ・新学習指導要領の内容を周知するとともに、教務部と協力しながらキャリア学習プログラムの活用の仕方を検討していく。
目標の達成に必要な具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒につけたい力を明らかにし、授業研究を通して、児童生徒にとって分かる・できる授業にするための方法を検証していく。 ・外部講師を招聘した研修会や本校職員が講師となる自主研修会を実施し、専門性を身に付ける。 ・個に応じた教材・教具の開発を行い、校内メールで共有する。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の授業、授業研究会の充実度 ・職員研修会や自主研修会の充実度、参加率 ・研修後アンケートの結果
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロック研究会、一人一回の授業公開を行うことにより職員の授業改善への意識が高まった。 ・年3回の外部講師による研修会、本校職員を講師とした自主研修会を5回実施した。 ・校内メールにて教材・教具の紹介を行い、共通理解を図った。
評価の視点	評価
① ブロック研究会、一人1回の授業公開により、児童生徒が「楽しい」と感じるような授業改善ができたか。	A (B) C D
② 各種研修を通して、職員の専門的知識や資質を高めることができたか。	A (B) C D
③ 教材・教具を校内で共有し、個に応じた指導支援につながられたか。	A B (C) D
成果・課題	総合評価
○研究主題を共通理解し、日々の授業改善に心がけることができた。 ○今後も特別支援学校の教員としての専門性を身に付ける研修を継続的に行う。 ▲個につけたい力を見極め、個に応じた指導支援を行っていく。	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	・今年度の反省をもとに、来年度の研究方針を決める。

評価する領域・分野	生活支援部
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校は、児童生徒のよさや可能性を伸ばせるような工夫をしている」「学校では、児童生徒が社会生活の基礎的・基本的な力を身に付けられるような指導をしている」で高い評価が得られている。 ・「学校では、いじめや差別を許さず、厳しく対応している」「学校では、体罰の防止に努めている」では「わからない」との回答が目立つ。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が自分自身を価値ある存在と認め、自分を大切に思う自尊感情をはぐくむ。 ・児童生徒一人一人が、共感的な人間関係をはぐくみ、自己決定の場を豊かにもち、望ましい人間関係を築くことができる環境作りをする。 ・地域で行われる自然体験活動、社会奉仕体験活動、職場・職業体験活動、文化活動、スポーツ活動等の様々体験の機会を増やし、地域で生きる力を育む。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の実態に即したきめ細かい生徒指導、安全教育を推進する。 ・部活動顧問会議を行い、部活動における生徒指導の効果を共通理解するとともに、地域との交流計画をたてる。 ・生活支援部が生活アンケートのとりまとめを行い、担任と情報を共有し、学部での共通理解を図る。
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や学年、周りの職員と情報交換を密にし、トラブルや問題行動へ素早く対応する。 ・部活動顧問会議を実施し、部活動の方向性・指導の重点の共通理解を図る。 ・ひびきあい週間を設け、学校生活アンケートや二者懇談、人権についての授業を行う。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・いじめの有無、委員会での評価、生徒との相談、児童生徒の様子
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・校内生徒支援委員会の実施や外部機関を招いての生徒支援委員会の実施。 ・担任を中心とした生徒指導・教育相談を行った。 ・部活動顧問会議の実施。 ・部活動やMSリーダーズ活動を通して地域との交流を行った。
評価の視点	評価
①児童生徒が楽しく学校に登校ができ、いじめの事実はあったか。	(A) B C D
②MSリーダーズ活動等が充実した活動になっていたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の情報共有を密に行うことで適切な指導を行うことができた。 ○児童生徒会、MSリーダーズ活動に積極的に参加する姿が多くあった。 ○生活アンケートを実施し、内容に応じて教育相談係と生徒指導主事が担任に聞き取りをすることで生徒間のトラブルを早期対応することができた。 ▲携帯・スマホ等情報モラルに係るトラブルが多かった。当該指導を効果的なものにするためには、保護者との情報共有は必要不可欠であり、両者十分な連携を行った上で生徒指導ができる体制を作る必要がある。 	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒支援委員会の学部、校内、校外の実施。 ・活動がより多くの人に理解されるよう校内、校外に向けて広報活動充実する。 ・MSリーダーズ活動や部活動等を通じた、徹底的な基本的な生活習慣の育成。

評価する領域・分野	健康支援部
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・「医療機関と常に連携を図って、児童生徒の健康管理に気を配っている」という項目に76%が「当てはまる」という評価であった。今後さらに医療機関との連携を継続的にきめ細かく行い、保護者にも分かりやすく伝えていきたい。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの心身や命を大切にする、発育や発達の状態に応じた健康教育の実施。 ・健康管理、衛生管理、緊急体制の整備に努める。 ・安全かつ適切な食物アレルギーへの対応や医療的ケアの提供。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画に基づいた健康教育（歯科指導、性教育、食育、体育活動等）の実施。 ・緊急時の対応訓練や環境整備。インシデントやアクシデントの共有。 ・アレルギーや医療的ケアについての検討委員会や研修の充実。
目標の達成に必要な具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師と連携した健康教育の実施。 ・様々な状況での緊急時対応訓練の実施。職員会での情報共有。 ・坐薬挿入研修や糖尿病研修の実施。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードや発言等の授業での児童生徒の取り組みや授業後の行動の姿。 ・緊急時対応、医療的ケア、食物アレルギー等における情報共有やその後の実践。
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科指導（歯科衛生士）、食育指導（学校栄養士）、職員向け性教育講演会（外部講師）、性教育実践発表会（職員）の実施。 ・打ち合わせなしでの緊急時対応訓練、AEDを使用しての対応訓練を実施。 ・学校医や看護講師による坐薬研修や糖尿病研修。 ・全校メールや職員会でのインシデント、アクシデントの紹介。
評価の視点	評価
① 健康教育（歯科指導、性教育、食育、体育活動等）の授業実践ができたか。	A (B) C D
② 児童生徒の健康管理や支援を行うための情報の共有を行うことができたか。	A (B) C D
③ 職員の研修や緊急時の訓練を通して職員の専門的知識と資質を高めることができたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<p>○性教育の実践報告会や性教育講演会で、本校の性教育の課題が明確になってきた。発達段階に合わせ、視覚的に分かりやすい授業を実践していく。</p> <p>○看護講師不在時に教職員が行う、てんかん発作時の坐薬挿入に関して、人体模型を使用し、学校医に助言をもらいながら、研修を行った。</p> <p>○食物アレルギーに関して、保護者、担任、栄養士、保健主事、給食担当で給食の対応を実施することができた。</p> <p>▲医療的ケア対象の児童生徒が校外学習でスクールバスに乗車する時の基準があいまいなため、医療的ケア検討委員会で個々の児童生徒について検討していく。医療的ケア（日常）対象の保護者との連携をより密にしていける必要がある。</p> <p>▲校外水泳実習の場所の確保が難しかった。高等部は、ほぼ9月になってしまった。</p>	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・性教育の教材の共有化。高等部1年生への性教育プログラムの見直し。 ・スクールバス乗車基準を決定。医療的ケア保護者との懇談会を複数回行う。

評価する領域・分野	防災安全部
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 「学校は、児童生徒の安全に気を配り、緊急時の対応がしっかりしている」という項目に89%が「あてはまる」という高い評価があり、学校の安全教育に関わる活動が認められている。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 全校で防災・減災教育をさまざまな単元に取り入れ、授業実践を行う。 さまざまな状況を想定した各種訓練の実施と各種マニュアルの検証。 防災安全活動を通じての地域との連携。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 年間指導計画に基づいた防災教育の展開と授業実践カードの記入。 最新情報や具体的な想定を加えたより実践的な防災及び防犯訓練。 防災・防犯訓練では、地域の防災士や警察官等と連携を行う。
目標の達成に必要な具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> 各教科や単元での防災教育や全校での総合防災訓練、職員研修の実施。 不審者対応訓練での記録映像での振り返り、Jアラートや避難中に緊急地震速報が流れる等の、新しい想定での命を守る訓練の実施と振り返り。 学校安全派遣事業を活用した、専門家立ち会いの下での訓練実施。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> 防災教育授業実践カードによる振り返りと、職員への情報共有。 各防災・防犯訓練及び研修の振り返りと、マニュアルの改善点の共通理解。 専門家による訓練実施後の講評、及び指摘箇所の改善。
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> 各学年から防災教育に関する授業実践カードの集約。 Jアラートによる情報伝達時対応マニュアル作成。 備蓄の充実、命を守る総合防災訓練を含めた年に3回の定期防災訓練、安全確保ミニ訓練（シェイクアウト）、防災教育研修、交通安全教室、不審者対応訓練の実施、校内環境整備
評価の視点	評価
① 全校で防災・減災教育の授業実践ができているか。	A ㊦ C D
② 訓練や研修を通して、緊急時の対応・備えができているか。	A ㊦ C D
③ 地域と連携した防災安全活動が展開できているか。	A B ㊦ D
成果・課題	総合評価
<p>○9月の総合防災訓練を中心として、全校で防災・減災教育に取り組むことができ、防災グッズ作りや非常持ち出し袋の確認、非常食の試食、消火体験等の授業内容が全校職員に広まりつつある。また、校外学習先で防災・減災教育を行う等、各教科の単元に防災教育の活動やねらいを取り入れる学年があった。</p> <p>○防災士や岐阜大学村岡治道教授等の助言を受け、校内の環境整備を進めることができた。</p> <p>○Jアラートによる情報伝達時の対応マニュアルを作成し、訓練による検証を行うことができた。</p> <p>▲外部の専門家との連携があるが、近隣の施設や保護者と連携した活動や協力体制の強化が課題である。</p> <p>▲総合化された学校での、ひとりひとりの発達段階に応じた系統的な防災教育プログラムの作成が遅れている。</p>	A ㊦ C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> 9月に防災週間を設定し、各学年での個に応じた防災・減災教育の実施。 引き渡し訓練の実施日を近隣の小学校と合わせて実施。 近隣施設や保護者への防災意識の啓発についての情報発信。

評価する領域・分野	進路支援部
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者への情報提供を積極的に行ったことにより、「進路に関する連絡や情報提供を児童生徒や保護者に向けて適切に行なっている」の項目に対して「あてはまる」が昨年度より増えた。 ・「進路指導において関係諸機関との連携をきめ細かく行っている」の項目に対して「わからない」の割合が多かった。連携の現状を保護者に分かりやすく伝え、安心してもらえようようにしたい。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の生活につながる系統立ったキャリア教育の推進 ・関係機関との連携による進路支援及び職場定着支援、生活支援の充実 ・職員のスキルアップと、保護者の啓発
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・進路支援部と各担任との連携（関係機関とのケース会議や懇談の実施） ・教務部や研修部、渉外部との連携
目標の達成に必要な具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年（部）の進路指導計画の見直し ・関係機関による授業や研修、関係機関を入れたケース会議や懇談等の実施 ・職員への情報提供と研修、保護者を対象とした懇話会や相談会等の実施
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・高3生徒の進路実現、卒業生の職場定着の状況 ・進路に関わる懇話会や相談会等への保護者の参加度 ・進路に関わる情報に対する職員の習熟度
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・高3の一般就労する生徒とサテライトtが交流する機会を複数回設定した。 ・福祉サービス事業所の合同説明会を実施した。 ・職員に研修を2回、職場見学、マナー講座を実施した。
評価の視点	評価
① 高3生徒及び卒業生が、それぞれの進路先に安定して通うことができるか。	(A) B C D
② 保護者に対して、進路に関する情報提供や啓発を行うことができたか。	A (B) C D
③ 職員に対して、研修等を通して必要とされる情報を提供することができたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<p>○高3生徒について、早い時期から関係機関と情報交換することができた。卒業生についても関係機関や本校職員と連携し、支援をすることができた。</p> <p>○抽象的な内容になると保護者が関心をもちにくい。合同説明会や進路相談会は保護者のニーズに合い、参加者が多かった。</p> <p>○マナー講座はニーズに合い、好評であった。職員によって知識や経験に差があるので、対象を絞ったり自主研にしたりして必要な研修を行えるとよい。</p>	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年（部）のつながりを意識したキャリア教育の計画を作成・実施する。 ・保護者に進路に対する意識を高めてもらえるよう情報提供の内容や方法を工夫する。 ・情報発信や呼びかけを積極的に行い、職員の進路に対する意識を高める。

評価する領域・分野	地域支援センター（特別支援学校のセンター的機能）	
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 「地域のセンター的機能の役割を果たしている」については7割の方に高い評価を得ることができたが、「わからない」という評価が2割以上あり、さらにセンター的機能としての業務内容の周知が課題である。 	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援学校のセンター的機能を推進し、地域の教育・福祉・医療等関係機関や保護者との連携を強化するとともにニーズに応じた教育的支援を提供し、地域の特別支援教育の専門性の向上を目指す。 	
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 地域支援センター 他分掌との連携 	
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> 地域の福祉関係機関による保護者対象の合同説明会や学校との交流会を企画、運営し連携を強化する。 地域の教育機関等からの要請を受けて継続的な相談・支援業務にあたる。 地域の特別支援教育のニーズに応えた公開講座を計画・実施する。 ホームページやメール等で特別支援教育に関わる情報の発信に努める。 	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> 福祉関係機関による保護者対象の合同説明会や学校との交流会の参加者数 相談・支援の依頼件数及びリピート率や相談・支援後の報告書による検証 公開講座の参加者数及びアンケート結果 	
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> 福祉関係機関による合同説明会（1回）や交流会（3回）を実施した。 教育機関等からの依頼に応じた相談・支援や研修会等の講師を務めた。 外部講師による公開講座を計画、実施した。 通信発行やホームページ掲載による情報発信を行った。 	
評価の視点	評価	
① 福祉関係機関による合同説明会や交流会は、連携の強化につながったか。	A (B) C D	
② 相談・支援の依頼内容により、地域の特別支援の質の向上が確かめられたか。	A (B) C D	
③ 公開講座は参加者に満足してもらえたか。	(A) B C D	
成果・課題	総合評価	
<ul style="list-style-type: none"> ○地域の教育・福祉・医療等関係機関や保護者との連携を図るための合同説明会や交流会を開催することができ、お互いを知る機会を多くもつことができた。 ○相談支援、来校相談、支援登校の依頼が多くあり、地域支援センターの認知度と信頼度の高さを実感できた。 ○公開講座では多くの参加者があり、アンケート結果においても地域支援センターへの期待度や信頼度を確認することができた。 ○高等学校を含めた地域の特別支援のネットワーク構築がさらに充実し、特に多治見地区の中高連携会議を継続することができた。 ▲高等学校における特別支援教育の専門性の向上が課題である。 ▲校内における職員の専門性の向上を目指して、情報発信や研修に努める。 	A (B) C D	
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援コーディネーターとしての専門性の向上を目指し、研鑽を積む。 さらに地域との連携の充実のため、医療、福祉、教育機関との積極的なネットワークの構築と連携強化を目指す。 	

評価する領域・分野	渉外部
現状及びアンケートの結果分析等	・アンケート結果によると、「地域に開かれた学校」という項目に対して、「あてはまらない・わからない」という意見が全体の1/3近く出されている。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	・PTA活動において、地区活動や各専門委員会を通して、地域での親の親睦や相互理解を深め、会員にとって楽しく充実した特色ある活動を行う。 ・地域にある資源や人とのつながりにより意識を向け、児童生徒や保護者の願いを発信したり、地域を巻き込んだPTA活動を推進したりする。 ・作品展等を通して、広報の窓口となり、本校の教育活動の理解を広げる。
重点目標を達成するための校内組織体制	・各地区及び各専門委員会に担当職員を配置し、PTA活動をサポートする。 ・広報担当の職員を配置し、新聞、地域の情報誌等の活用を図ったり、PTA行事については担当分掌職員全員でサポートを行ったりする。 ・作品展担当職員を配置し、児童生徒の作品等を地域に紹介する。
目標の達成に必要な具体的な取組	・各地区及び各専門委員会において、それぞれ独自の行事等を計画し、実施を行う。 ・広報活動を通じて、学校行事等を広く地域に発信したり、地域資源を活用したPTA行事を計画し、実施を行ったりする。 ・地域に児童生徒の作品等を積極的に紹介したり、新しい場所等の開拓を行ったりする。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・PTA発信の行事等への主体的な取組。 ・地域との連携（情報発信、地域資源活用）。 ・児童生徒の創作活動の地域への発信。
取組状況・実践内容等	・各地区及び各専門委員会を中心とした活動により、会員同士の親睦が深まったが、参加人数が少ない行事もあり、さらに多くの会員に参加してもらうための工夫が必要である。 ・市内のレクリエーション団体の協力を得て、スポーツに親しむ行事を開催できた。 ・児童生徒の作品等を紹介する場が新たに2か所開拓できた。
評価の視点	評価
① PTA発信の主体的な取組となったか。	A ② C D
② 児童生徒の学習活動の発信を行ったり、地域資源の活用をしたりしたか。	A B ③ D
③ 児童生徒の創作活動について、広く地域に紹介できたか。	A ④ C D
成果・課題	総合評価
○PTA行事では、たくさんの参加者が集まり、実りある活動となった。職員のサポートは多かったが、役員を中心に積極的に活動してくれた会員が多数いた。 ▲また、PTA行事等に参加した会員同士の親睦は深まったが、参加人数の少ない行事等もあった。より多くの会員に参加してもらうための工夫が必要である。 ○児童生徒の学習活動を発信することができた。 ▲PTA活動については、HP等も活用して地域に発信していくとよい。また、地域資源を活用したり、巻き込んだりする行事等に取り組んでいけるとよい。 ○児童生徒の作品等を紹介する新たな場を開拓した。	A ⑤ C D
来年度に向けての改善方策案	・PTAが考案し、PTAからの発信となるようにサポートすることで、PTA活動の充実につなげる。 ・“地域との連携”“地域への発信”をキーワードとし、児童生徒の学習活動やPTA活動を積極的に発信したり、地域を巻き込んだPTA行事に取り組んだりする。 ・児童生徒の創作活動を紹介できるような機会や場を開拓する。

評価する領域・分野	舎務部	
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・「一人一人のよさや可能性を伸ばせるような工夫をしている」 (91%) ・「いろいろな人との交流を大切にし、児童生徒の経験を広げている」 (85%) ・「安全に気を配り緊急時の対応がしっかりしている」 (89%) 	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p><寄宿舎機能を活かした多様な学びの創造></p> <ul style="list-style-type: none"> ・身辺自立、生活自立、社会自立に向けての一步として寄宿舎チャレンジを実施し、成果を保護者・学部と共有する。 <p><インクルーシブ教育システムの実践と発信></p> <ul style="list-style-type: none"> ・校外学習や交流会を通して居住地の生活資源の活用方法を知り、社会参加の習慣形成をする。 <p><防災・安全教育の創造></p> <ul style="list-style-type: none"> ・寄宿舎生活のいろいろな場面で命を守る訓練・変災時体験活動を実施し、命を守る基本的な方法、手段が身につくように習慣づける。 	
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・指導員部会、チーフ会、舎内分掌（保健安全、研修、舎生支援の各係）相互の連携を図る。 ・各係による、学校内の校務分掌（防災安全部、健康支援部、研修部、生活支援部）との連携を図る。 	
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・命を守る訓練、不審者対応訓練、搜索訓練、緊急時対応訓練、停電訓練等を実施する。 ・寄宿舎チャレンジを実施する。 ・交流会の実施、地域資源を活用した余暇支援を実施する。 	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・各種訓練時の舎生の様子。 ・寄宿舎チャレンジの申込数、実施数、実施後の保護者からの感想。 ・事前事後を含めた交流時の舎生の様子。 	
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・命を守る訓練 3 回、不審者対応訓練 2 回、搜索訓練 3 回、緊急時対応訓練 2 回、停電訓練 2 回、非常食体験 2 回、それぞれ実施した。 ・寄宿舎チャレンジに 30 人が取り組んだ。 ・長寿会との交流、瑞浪高等学校との交流を実施した。 	
評価の視点	評価	
① 寄宿舎チャレンジを実施し、成果を保護者・学部と共有できたか。	A B C D	
② 将来の生活を見据えた交流活動が推進できたか。	A B C D	
③ 命を守る基本的な方法、手段が身につくように習慣づけができたか。	A B C D	
成果・課題	総合評価	
<p>○寄宿舎チャレンジでプロフィール表を見直し、利用目的を明確にしたことで支援の充実につながった。</p> <p>○瑞浪高校との交流会では、お互いに関心をもち、相互理解していくよい機会になった。</p> <p>▲本年度は入舎後に保護者や担任と指導方針を確認したが、できれば入舎前に共通理解をした上で4月から一貫した支援を進めていけると良かった。</p>	A B C D	
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・入舎前の3学期中に三者懇談を行う。この中で一年間の入舎生活でどのような力を付けていくのかを明確にし共通理解する。 	

学校関係者評価

学校関係者評価委員会

日 時 平成30年1月14日、2月22日 実施

出席者 校長、事務部長、教頭、小学部主事、中学部主事、高等部主事、教務主任
PTA会長、PTA副会長、PTA役員、学校評議員

意見・要望・評価等

- ・児童生徒一人一人が落ち着いており、生き生きして楽しそうである。一人一人のよさや可能性を伸ばせるような教育が行われている成果だろう。
- ・地域や高等学校との交流が盛んに行われ、社会とのつながりが積極的に作られており、大変いいことである。やり方も工夫されており、さすがプロだと感じた。
- ・学校として、防災教育に力を入れられており、児童生徒の安全に気を配り、緊急時の対応がしっかりしている。
- ・校内のどこでも、教職員が気持ちの良い挨拶をされており、その姿から学び、児童生徒も自分から大きな声で挨拶をしていることに感心した。
- ・今年度から配布されている「校長だより 元気です」は、学校が取り組んでいることをタイムリーに知ることができて、とても良い。続けてほしい。
- ・保護者アンケートの結果とその対応策を分かりやすく保護者に報告してほしい。
- ・いじめや差別の防止について、学校がどのような取り組みや対策をしているかが分かりにくい。
- ・学校の施設設備について多くの機会を通じて県に訴えて、少しずつでも改善して欲しい。